

履修モデル

学位取得に向けて研究するために、研究課題に即した適切な授業科目を選択しなければならない。そのため、以下の履修モデルを参考に研究課題に即したオリジナルな履修計画を立てることとなる。

健康・栄養科学専修	研究題目	インスリン分泌に血中脂肪酸の濃度と質および食品機能性成分が与える影響	
	養成する具体的な人材像	食品企業や分析・研究機関などにおける総合・専門職 大学病院等で栄養指導・研究に従事する管理栄養士	
	研究内容	2型糖尿病は肥満によるインスリン感受性低下とインスリン分泌低下が相まって発症するが、血中脂肪酸濃度の上昇がインスリン分泌低下や膵臓β細胞の細胞死を引き起こす現象が「脂肪毒性」という病態として捉えられている。毒性の強い長鎖飽和脂肪酸に対して、オレイン酸や中鎖脂肪酸といった二重結合の数や炭素数の異なる脂肪酸の毒性を弱める効果が注目を集めている。本研究では、このような脂肪酸の質の違いがインスリン分泌に与える影響およびその作用機序について、膵臓β細胞の小胞体およびミトコンドリアへの影響を中心に調べ、さらにこれらの知見を元に、脂肪毒性に抑制効果をもつ食品成分について系統的に調べる。	
	指導教員	田中直子教授：全般的指導（研究テーマ・研究方法の選定、研究結果の整理と考察、研究発表・プレゼンテーション等への指導）	
	履修科目	1 年次	2 年次
		（共通科目） 健康科学（2 単位） 統計的調査方法論（2 単位） 研究方法論Ⅰ（健康・栄養科学）（2 単位） （栄養化学分野） 栄養生化学特論（2 単位） 栄養生化学・細胞学実験（1 単位） 分子細胞学（2 単位） 運動栄養学特論（2 単位） （食品・機能学分野） 食品機能学特論（2 単位） （医療・保健栄養学分野） 栄養疫学特論（2 単位） 予防栄養学特論Ⅰ（2 単位）	（医療・保健栄養学分野） 病態・高齢者代謝学（2 単位）
		（研究指導）人間生活科学特別研究Ⅰ（5 単位）	（研究指導）人間生活科学特別研究Ⅱ（5 単位）
		必修2科目10単位、選択11科目21単位、合計13科目31単位	

生活環境学専修	研究題目	コレクティブハウスにおける生活実態および共用空間の利用からみる有効性	
	養成する具体的な人材像	生活者の視点から居住空間を分析し、快適な居住環境を提案する力をもつ人材の養成	
	研究内容	近年我が国では、小家族化や地域コミュニティの希薄化にともない孤立した子育てや単身者がみられ、家族を超えたつながりが求められている。コレクティブハウスとは、一棟棟に独立完備した住戸と居住者で使う共用空間があり、調理・掃除など日常的な生活の一部を協働する共生型の住まいである。本研究ではコレクティブハウスを研究対象とし、人と人とのつながりが生まれ安心できる住まいとしての有効性を検討する。具体的には、平時および新型コロナウイルスのパンデミック禍における生活・共用空間利用の実態を把握し、集まることに制約があるコロナ禍で生じた変化から、共生型としての住まいの価値を明らかにする。さらに日本におけるこれからのコレクティブハウスの住まいのあり方を探り、空間提案を行う。	
	指導教員	大橋寿美子教授 研究全体の指導 松本暢子教授 研究の整理・分析方法	
	履修科目	1 年次	2 年次
		（共通科目） 家族関係論（2 単位） 研究方法論Ⅱ（生活環境学）（2 単位） （環境デザイン分野） 住生活学特論（2 単位） 住居学特論演習（2 単位） 住環境特論演習（2 単位） （他専修） 子ども家庭福祉特論（2 単位）等	（環境デザイン分野） 住生活学特論演習（2 単位） 住居学特論（2 単位） （他専修） 食文化特論（2 単位）等
		（研究指導）人間生活科学特別研究Ⅰ（5 単位）	（研究指導）人間生活科学特別研究Ⅱ（5 単位）
		必修2科目10単位、選択10科目20単位、合計12科目30単位履修	

保育・教育学専修	研究題目	乳児の非言語的な感情の表出に対する保育者の関わり	
	養成する具体的な人材像	高度な専門性を身に付けた保育士、幼稚園教諭、保育者養成校の教員	
	研究内容	保育の現場において、子どもを理解し関わることはとても重要である。この理解は、子どもの言動、行動、表情に基づく。特に言葉を自在に扱うことのできない乳児においては、表情からその思い等を理解することが重要になると考えられる。こうした「理解」の起点となるものとして、保育者の視線に着目したい。乳児保育における「視線」の研究は、乳児自身の「視線」に関する一方向的な研究は多くあるが、保育者との相互的な関わりの中で、その「視線」がどのような意味を持つのかについて述べられた研究は現在のところ見つけることができていない。そこで、本研究では、乳児と保育者の相互的なやりとりの中で保育者はどのように関わっているのか、そしてその保育者の「視線」はどのような意味を持つのかを明らかにすることを目的とする。	
	指導教員	岡健教授	
	履修科目	1 年次	2 年次
		(共通科目) 研究方法論Ⅲ (保育・教育学) (2 単位) (基礎教育分野) 保育学基礎理論 (2 単位) 教育学基礎理論 (2 単位) (保育・教育分野) 保育臨床特論 (2 単位) 保育方法特論 (2 単位) 幼児教育実践演習 (2 単位) 学校教育実践研究特論 (2 単位) 園内研修法研究特論 (2 単位) (心理・社会・文化分野) 臨床発達心理学演習 (2 単位) 等	(保育・教育分野) 芸術教育研究特論 (2 単位)
		(研究指導) 人間生活科学特別研究Ⅰ (5 単位)	(研究指導) 人間生活科学特別研究Ⅱ (5 単位)
		必修2科目10単位、選択10科目20単位、合計12科目30単位履修	

保育・教育学専修	研究題目	子供が主体的に問題解決していくための学習指導に関する研究	
	養成する具体的な人材像	保育・教育に関する理論的・実践的な研究と指導に従事できる高度な知識・技術と研究能力を備えた人材	
	研究内容	これからの小学校の理科においては、子供が主体的に連続的に問題解決を行うことが求められている。そのことは、子供が子供たちなりの科学を創る理科授業であるといえる。そのためには、ある事柄に対してするしかない判断も含めて、自らの意思で決定して行動することは、子供自身がもっている自分の力を使ってみて、その有用性等に気づき、自覚的に育てられるか、またはそれを未来にどのように役立てられるのかである。こうした学びを行う上で、教師はいかなる「問い」を用いて育てていくのかを明らかにする必要がある。この教師の手立てを明らかにするのが研究内容である。	
	指導教員	石井雅幸教授 研究全体の指導 大谷洋貴専任講師 研究方法論、特に統計的な処理に関する指導	
	履修科目	1 年次	2 年次
		(基礎教育科目) 教育学基礎理論 (2 単位) 福祉教育学特論 (2 単位) 生涯発達心理学特論 (2 単位) (保育・教育分野) 学校教育実践研究特論 (2 単位) 自然科学研究特論 (2 単位) こどもの自然認識 (2 単位) 言語教育研究特論 (2 単位) (心理・社会・文化分野) 教育社会学演習 (2 単位)	(保育・教育分野) 学校カリキュラム研究特論 (2 単位) 特別支援教育研究特論 (2 単位) 教科教育学研究特論 (2 単位)
		(研究指導) 人間生活科学特別研究Ⅰ (5 単位)	(研究指導) 人間生活科学特別研究Ⅱ (5 単位)
		必修2科目10単位、選択11科目22単位、合計13科目32単位	